



【AADC-0040 (Breast)】FEC療法 (エピルビシン点滴 + シクロフォスファミド点滴 + 5-FU 点滴)

■ **どういった患者さんへのレジメンか?** : 術前、術後、転移・再発

次治療↓

■ **スケジュール 3週を1サイクル**

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 注 |  | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |  |

■ 副作用情報

(Sequential Adjuvant Epirubicin-Based and Docetaxel Chemotherapy for Node-Positive Breast Cancer Patients: The FNCLCC PACS 01 Trial)

Gread3 以上

脱毛 83.9% (Grade3)、好中球減少 (33.6%)、嘔気・嘔吐 (20.5%)、発熱性好中球減少 (8.4%)、口内炎 (4.0%)、心障害 (1.3%)、

All Gradeで無月経が 72.4%

■ **支持療法** : 抗がん剤治療による有害事象に対応する **基本的な処方** です。

患者さまの常用薬、状態に応じて変更する場合がございますので、ご承知おきください。

| | | |
|--|-------------------------------------|--|
| 点滴 翌日 から 飲むお薬 点滴当日は 相澤病院で点滴 にて制吐剤 と ステロイド剤を 投与しています | デカドロン錠(4) 1日2回 朝と昼 食後 1回1錠 | 吐き気止めとして処方されています 点滴翌日から 3日間 飲みます。 昼に飲む理由は、 16時以降に飲むと不眠になる可能性があるからです。 |
| | ファモチジン OD 錠 (20) 1日2回 朝と夕食後 1回1錠 | デカドロン錠による胃腸障害を予防すると 抗がん剤によるムカムカ症状を緩和します。 点滴翌日から 3日間 飲みます。 |
| | メトクロプラミド錠 (5) 1日3回 毎食前 1回1錠 | 点滴後、1週間くらい、むかむかする場合があります。 症状軽減目的での投与となります。 |
| | アプレピタントカプセル (80) | 点滴翌日から 2日間 飲みます。 点滴当日は、相澤病院化学療法室にて、 アプレピタント 125mg を服用していただいています。 |

■ 服薬指導のポイント

- この治療は**高度催吐性リスクに分類され**、悪心・嘔吐のコントロールが重要となります。
 当院では、点滴当日アプレピタント 125mg を投与した時間を患者さまにお伝えしており、前日アプレピタントを服用した時間に翌日以降も服用するようお願いしています。(添付文書用法と異なりますこと、ご注意ください)
 よく効く薬であり同じ時間に飲むことで効くという心理的な働きかけです。
- 悪心嘔吐がなくても支持療法薬は、指示日数きちんと服用するようお願い下さい。
- 催吐リスクの強い患者さまには、オランザピンを処方することがあります。

● 食欲不振、悪心・嘔吐

点滴当日病院にて投与される制吐剤、翌日からの支持療法服用で、ほぼコントロール可能ではありますが、中には悪心嘔吐・食欲不振で入院となるケースもあります。

食欲がないときのアドバイスとしては、無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べる、揚げ物・煮物・煮魚や焼き魚など避けることで嘔気を軽減することもあります。栄養補助食品など利用し、少量でもカロリーや栄養素を補うといった対策もあります。

【比較的 食べやすい食品の例】

卵豆腐、茶碗蒸し、プリン、お粥、煮込みうどん、雑炊、野菜のスープ煮、ビスケット等

● 脱毛

脱毛については、髪の毛だけではなく全身の体毛において起きる可能性があります。点滴開始2~3週間後に発現する方が多いです。治療が終わると1~2ヶ月で再生がはじまり、3~6ヶ月で、ほとんど回復しますが、髪質が変化することもあるようです。

●便秘

当院症例からの印象ですが、AC 治療中は便秘傾向になる方が多いです。
便通の状態もお伺いいただけますとよいかと思います。下痢になる方もいるかもしれません。

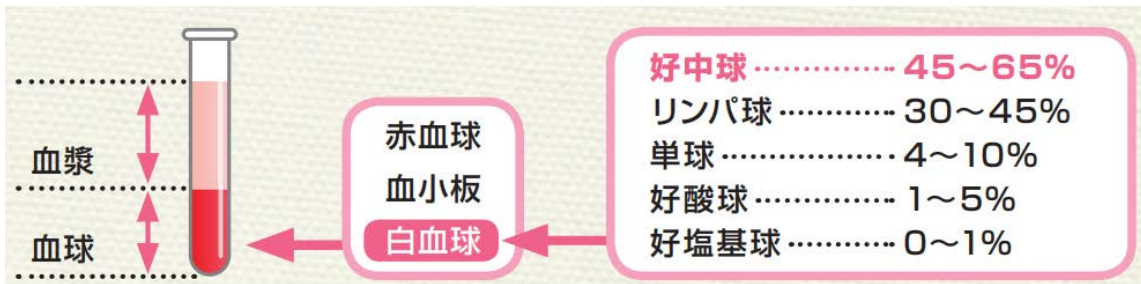
●口内炎

口内炎には薬の粘膜に対する直接的な障害と、薬による骨髄機能の抑制（骨髄抑制）に伴う局所感染によって生じる二次性障害の2つがある。
抗がん剤の投与後、およそ5日目から10日目ごろに口内炎が発生しやすくなります。FEC療法の場合、同時期もしくは少しずつ増えて、骨髄の機能が低下しますので、口内炎によって傷ができたところに細菌などが侵入して感染しやすくなります。うがい等でお口の中を清潔に保つことが重要です。
相澤病院院内製剤のレバミピド含嗽水を使用している患者さんもあるかもしれません。
（病院で口内炎用のうがい薬をだしてもらっているという場合は
「茶色の瓶に入ったものですか？それなら使うたびよく振ってご使用下さい」とお伝え下さい）

●尿の着色、トイレの使用方法について

点滴投与しているエピルビシンによって点滴当日～翌日にかけて尿が赤色に着色します。
このレジメンで使用する抗がん剤は尿糞便中に3～5日排泄されます。患者さんからトイレ使用に関して
もし何か聞かれ場合には
「御家族のためにも使用後のトイレは、トイレのふたをして水を流してください。
このとき水を2回流したほうがよいでしょう。」とお伝えいただければと思います。

●好中球減少



好中球は白血球の約半分を占め、血液1μLあたり2,500～6,000個あります。
好中球数が血液1μLあたり1,000個以下になると感染症を来しやすく、500/μL以下になると重症感染症に陥りやすいです。感染症の症状としては、下図（こういった症状が続く場合は病院に連絡するよう伝達）



好中球は、体の外から侵入してくるウイルスや細菌などと戦う細胞です。病原体を見つけた好中球は、病原体を取り込みます。
好中球が下がっているということは、つまり抵抗力が落ちているということです。
FEC療法は骨髄という好中球を作り出す造血機能（骨髄）の働きを抑制してしまうので、体内の好中球が減ってしまうのです。

